

かいほつ

72号

題字 美合小
6年 平林 大和

岡崎市現職研修委員会
特別支援教育部会
平成27年2月9日発行



▲シャッターチャンスをねらえ！（豊富小） —岡崎ライオンズクラブ招待社会見学会「東山動物園」—



特別支援教育の立ち位置と課題

南中学校長

栗田 万砂夫

現在、義務教育段階の子どもは減少傾向にあります。特別支援学校や特別支援学級の在籍者、小中学校の通常学級に在籍して通級指導を受けている子どもの数は増加傾向にあり、全体に占める割合は、約九人に一人という計算になります。しかも、通常学級に在籍して通級指導を受けている子どもの方が、特別支援学校に在籍する子どもより多いのです。さらに、通常学級にいる発達障害の可能性のある子どもは、四十人学級ならば二〜三人という計算になると言われています。このような実態から特別支援教育に対する認識や意識の改革、システムの改革が重要となってきました。

特別支援教育をめぐる法の動きも、ここ数年、いろいろと見られます。二〇〇七年、「特殊教育」が「特別支援教育」になり、個々の教育的ニーズに応じた指導の実現が目指されるようになりました。

二〇一一年、可能な限り、障害のある子と障害のない子が、共に教育を受けられる配慮をすることが求められるようになりました。共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システムの構築です。

二〇一三年、障害のある子どもの就学の手続きについて、可能な限り、保護者の意向を尊重し、総合的な観点から就学先を決定するように改められました。合理的配慮や合意形成のいっそうの重視です。

このように、法整備はされてきましたが、実際にはまだ課題も多いです。○保護者や家族が子どもの障害を受け入れられず、将来を見通し、どういった場面で教育を受けさせるのがよいのかの判断ができない場合があること。

○障害のある子どもの増加に伴う受け入れの場となる教室や教員数の不足。

○特別支援教育を担当する教員の特別支援学校免許状保有率の低さ。

○卒業後の環境整備を含めた世の中全体の理解の不足。

これらの課題の解決はすぐには難しいですが、岡崎市ではブロック交流会を開き、保護者や教師の情報交換や研修の場とするなどしています。今後、地域に出て障害者への理解を図るなど、それぞれの立場から知恵を出し、行動に移すことで、障害者の暮らしやすい世の中につながるようになっていきたいと思います。



▲グレート家康公「葵」武将隊

子どもと親の集い ブロック交流会

ゲームと踊りで楽しかった交流会
北・岩津ブロック

大門小 教諭 小田 修治

岩津小学校で交流会がありました。各校がゲーム屋さんコーナーを用意し、親子で各ゲームを楽しみました。岡崎キヤラクターボウリング、手裏剣・爆弾で敵の城を倒せ、家康探検をしよう、岡崎名物をゲットしよう、北中つりぼり、各学校が工夫したゲームに係の子も生き生きと活動していました。そして、今年で四年目になる葵武将隊によるアトラクション、全員で踊った堪忍をどりと、笑顔いっぱい交流会になりました。



▲学区の好きな場所、紹介します

楽しいふれあいデー

竜南ブロック

上地小 六年 樹岡 宗矩

竜南中学校で、上地小と緑丘小と竜南中の友達といっしょに、ふれあいデーをしました。

はじめに、自己紹介をしました。自分の名前と、学区の中で好きな場所を紹介しました。ぼくは、ランパークを紹介しました。話すスピードが速すぎないように気をつけて、大きい声を出して言いました。言うときに、お母さんやお父さんが来ていたので、きん張したけど、がんばろうと思って言いました。去年に比べてうまく言いました。次に、調理室に行つて、カレーライスを班ごとに作りました。他の学校の子といっしょに作りました。ぼくは、玉ねぎの皮をむいたり、ジャガイモやニンジンの皮をむいたりしました。最後にビンゴをしました。なかなかビンゴにならなかったけど、とても楽しかったです。

お祭りみたいなブロック交流会
東海・額田ブロック

山中小 六年 寛 雅海

ブロック交流会では、学区紹介やなかよしクイズをしました。ぼくたちは、山中小幡宮や舞木検査場の紹介をしました。なかよしクイズは、他の学校の友達と同じ班だったので、どきどきしました。みんなで協力してクイズに答えました。クイズはむずかしかったです。そのあと、学校ごとに出し物をしました。ぼくたちは「ピンポン流し」をしました。ぼくは、ピンポン玉を二秒ごとに流す仕事をしました。仕事を交代して、ぼくも遊びに行きました。豊富小の「ジグソーパズル」が楽しかったです。レベル4まで行きました。みんなで食べた豚汁とお母さんの作ったおにぎりは格別でした。ブロック交流会は、まるでお祭りのように楽しかったです。



▲ピンポン流し、楽しいよ！

各ブロック交流会の内容

○北・岩津ブロック	各校遊びコーナーの出店、ふれあいゲーム
○新香山・常磐ブロック	レクリエーション大会、おやつ作り
○葵・城北ブロック	レクリエーション、保護者読み聞かせ
○甲山ブロック	ふれあいゲーム、「夢おどる」踊り
○美川ブロック	デイキャンプ、三根五葉汁風豚汁作り
○東海・額田ブロック	地域自慢を入れた学校紹介、ふれあいゲーム
○南・翔南・福岡ブロック	学校ごとの出し物、ジャズダンス
○竜海ブロック	味噌を使った料理、岡崎にかかわる問題
○竜南ブロック	クリスマス会、カレーライス作り、クイズ
○六ツ美・六ツ美北ブロック	各校遊びコーナーの出店、ふれあいゲーム
○矢作ブロック	学校ごとの出店、流しそうめん
○岡崎北ブロック	岡崎の歌、学校ごとのゲーム

十二のブロックで、子どもと親の集い交流会が行われました。多数の参加があり、各ブロックともに活気に満ちあふれた会になりました。

子どもたちは、交流会を通して、普段、話をする事のない他校の友達と一緒に仲良く活動することができました。また、岡崎にちなんだダンス、クイズや料理などを通して、岡崎のことをより詳しく知ることができました。保護者にとっても、普段の悩みを相談できたり、情報を共有できたりして、よい機会になったと思います。

研究発表会

にこにこ矢南区

矢作南小 教諭 院南 考幸

研究発表会は、「子どもたちの対話を育む学びの創造」をテーマに十一月十八日に行われました。子どもたちは、矢作南小学区の人たちをもっと笑顔にしたいと、矢作大豆について学び、育てた大豆で豆腐や納豆を作ろうと計画しました。授業では、豆腐名人を講師に招き、名人の作った豆腐と自分たちが作った豆腐の味や食感の違いを、「対話」を通して明らかにしました。相手の意見を聞き、自分の考えを述べる対話ができました。味の違いだけでなく、四十年職人を続ける名人の生き方まで聴き取る力が付いてきました。二月には、「にこにこ矢南区」の会を計画し、学区の人たちを笑顔にしたいと思います。



▲名人の豆腐をいただく子どもたち

子どもの達成感につながる支援

愛宕小 教諭 高瀬 玲子

本校は、十一月に、「見たい 知りたい 学びたい 目指せ スーパーサイエンスキッズ」を研究主題に、理科の研究発表会を行いました。

自閉症・情緒障がい学級では、「ふくらむじっけん」をテーマに、ポップコーンやカップケーキ等のおやつを作りました。

また、知的障がい学級では、「かたまるじっけん」をテーマに、オリジナルキャンドル作りを行いました。溶かしたろうを好きな型に流し、冷えて固まる間に飾りつけをするのが主な活動です。Aには、自分の力で制作できるように、設計図を準備し、作業用の机に手順を書いた紙を貼っておく支援を行いました。その結果、Aは設計図を確認しながら、自信をもって黙々と作業に取り組むことができました。そして、キャンドルが完成した瞬間には、満足感いっぱい笑顔を見せてくれました。本研究を通して、子どもの実態に合った教材を開拓していくことはもちろん、自分の課題を達成できたという満足感のもてる支援を絶えず練ることが、とても大切であることを実感しました。

矢作南小 愛宕小

学級紹介

緑丘小・南中

大好き！ 乗り物学習

緑丘小 教諭 吉田 里美

緑丘小学校の特別支援学級は、二クラスで、十名が在籍しています。元気いっぱいの子どもたちです。

子どもたちが楽しみにしている学習の中に、乗り物学習があります。

今年も十一月に南公園へ出かけました。この乗り物学習では、路線バスを利用して、「自分でバス代を出す・遊具の乗り物券を買う・自動販売機でジュースを買う」という体験をしました。

教室で事前学習を進める中で、「バスに乗るときには、整理券を忘れずに取るよ。」「財布からお金を出すときには、落とさないようにしようね。」など、お互いに声を掛け合いながら、練習をすることができました。当日も、練習のようにしっかりとできました。

二月には、電車を利用した乗り物学習も計画しています。



▲自分でバス代を払うよ



▲クリスマス飾りは完売！

バザーに出店

南中 教諭 井上 裕美

今年度は一年生は男子一名、二年生は女子一名、三年生は男子一名の計三名と少ない人数ですが、「Smile」を級訓に、明るく楽しく笑顔いっぱいの毎日を過ごしています。

先日、六・七組のみんなでPTA寄贈品バザーに出店しました。六・七組コーナーとして、雑巾とアクリルたわしのセットやTシャツ、小物入れなどを販売しました。中でも、写真のクリスマス飾りは好評で、すぐに完売してしまいました。商品は、技術家庭科の時間などに一生懸命手作りしたものでしたので、みんな大喜びでした。松ぼっくりのクリスマスツリーや粘土で作った雪だるまなど、形や表情が不揃いなのですが、それがかえって手作り感があり、良かったようです。



卒業を前に親子の思い

何も分からなかったけど

六北小 六年 柴田 俊祐

ぼくは、学校が勉強やルールのある所だなんて知りませんでした。先生に教えてもらっても、理由も分からないままやっています。時々、先生を困らせて、迷惑ばかりかけていました。こんなぼくでも、六年生になるといろんなことができるし、分かるようになります。中学校に行っても、もつといろんなことにちよう戦して、がんばって行こうと思います。

あの時の不安が今どこに

六北小 保護者 柴田 玉江

どう後押しすれば、この子にとつて一番よい学校生活を送れるだろうかと、入学前まで考えていました。実際、学校に通うようになって不安に思っていたことが的中し、先生を困らせることが多々ありました。でも、不思議ですね、一学年上がる毎に、一つ一つ不安も減っていき、六年生の今では、あの時の不安はどこに行ってしまったのかと思うほど、成長しました。

中学校でも、頑張っしてほしいです。

中学校でがんばったこと

岩津中 三年 荒井 大樹

僕は三年間の中学校生活で一番がんばったことは、数学や社会などの勉強です。三年生になって、通常学級の子といっしょに授業を受けることが増えました。授業でなかなかついていけないことも多かったですが、テストもがんばりました。一生懸命努力したおかげで、だんだん結果もよくなりました。もうすぐ高校生活という新しい毎日が始まりですが、今まで以上にいろいろなことになんばっていききたいと思っています。

頑張った君へ

岩津中 保護者 荒井 和枝

早いもので、三年が過ぎようとしています。小学生の六年間よりも本当に、あつという間に過ぎてしまいました。この三年間での成長は、精神的な部分で大きく変わった時期でした。小学生の時よりも、自分の意志を強くもつようになつた姿を感じうれいしのと同時に離れていく寂しさも感じるようになったこの頃ですが、これから先、一人前になつていくことを心から願っています。頑張っ来て来た君へ、卒業おめでとう。

中学生の卒業後の進路

特別支援学校以外への進路希望が多くなりました。特に専修学校への希望が多いようです。多様なニーズに対応できるように、支援を続けます。

進路希望先	男	女	計
愛知教育大学	0	0	0
附属特別支援学校	0	0	0
みあい特別支援学校	6	8	14
豊川特別支援学校本宮校舎	0	0	0
豊田高等特別支援学校	6	3	9
半田特別支援学校桃花校舎	2	2	4
岡崎特別支援学校	0	0	0
高校(定時制)	6	2	8
高校(全日制)	2	0	2
専修学校	10	4	14
通信制・サポート校	3	0	3
春日台職業訓練校	1	1	2
就職その他	3	0	3
合計	39	20	59

(二月三十日現在)

今年度の表彰

CBCTでも絵画展
中日新聞社賞

- 特選 六名小 天野 虎鳳
- 「家庭の日」啓発ポスター 六名小 丹下 綺香
- 優秀賞 竜美丘小 多々内佑哉
- 優秀賞 城南小 石川 雄一
- 防火作品展ポスター 竜美丘小 多々内佑哉
- 入選 竜美丘小 多々内佑哉
- 明るい選挙啓発ポスター 愛宕小 鎌上 恭丞
- 動物愛護ポスター 岡崎獣医師会長賞
- 岡崎市中小学生作文コンクール 本宿小 高原 悠斗
- 入選 本宿小 高原 悠斗
- 愛知県緑化作品ポスター 原画コンクール小学生の部 愛知県教育委員会賞
- 恵田小 南 裕太
- 赤い羽根児童生徒作品コンクール 岡崎市共同募金委員会金賞 大樹寺小 今井 稜大
- 愛知県佳作 大樹寺小 今井 稜大
- 三河菊まつり 大樹寺小 今井 稜大
- 三河菊花協会賞 矢作北小 伊藤祐美子
- 国際平和ポスターコンテスト 最優秀賞 矢作西小 石濱 大夢
- MOA美術館児童作品展 絵画の部 金賞 矢作西小 野村 諒多
- 金賞 矢作西小 中村 倅貴
- 銀賞 矢作西小 神谷 真由
- 岡崎市技術・家庭科作品展 入選 広幡小 宮内 大輝
- 全国書画展覧会 書の部 六ツ美中 伊藤 未来